

令和7年度 大田区立南六郷小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和8年3月6日

○児童数284名(5月30日現在) 学級数10学級 大田区理科教育推進拠点校
○学校全体は落ち着いた雰囲気である。
○校内研究では、「すすんで問題を見付け、解決することができる児童の育成～発問の工夫を通した教員の授業力向上～」というテーマを掲げ、理科を中心として取り組んでいる。
○全校をあげて「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組み、マラソン大会や体育での持久走、長縄跳びの実践を通して、児童の体力向上を目指す。
○計画的な学習や補習指導、日々の授業改善など、学習内容の基礎基本の確実な定着と思考力・表現力の育成を図る。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄						
生育個別 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成社 会を 創造 的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	4: 80%以上	4	児童肯定的評価:81.5% 保護者肯定的評価:86.8% ○理科教育推進や地元商店街との連携など特色ある教育活動に取り組み、学校HPなどからも重点的に情報を発信したことで、児童・保護者の肯定的評価80%以上を達成することができた。次年度も、引き続き情報発信に努めるとともに、可能な限り保護者の教育活動への参加・参観の機会を増やしていく。 ○本年度よりスタートした大田区独自教科「おおたの未来づくり」科について、目的や内容を教員が理解するとともに、商店街内の古書店や日本工学院専門学校などとも連携を広げ、研究成果を12月7日(日)開催の地域祭り「Gラウンドマルシェ」において発表することができた。 ○理科に関する事象や器具、生物などの校内掲示や、毎月1〜2回朝時間を使って行う理科博士などを通じて、理科教育推進拠点校として学習環境の整備拡充と理科授業力の向上を図ることができた。	A 8	○理科の授業で物に触ったり操作したり生物の生態について調べたりすることで体験した満足度が高かった。保護者も児童の学びを学校外での発表があったことで意識を高められた。 ○積極的な活動の取組が反映されていると感じた。 ○町会のふれあい祭りに参加してもらい、楽しいイベントを探して参加してほしい。 ○理科教育を通して多様な価値観を育むことは子供たちにとって不可欠な力。また、地元商店街との連携は、地元への愛着にもつながり大切である。地域祭りでの発表も児童にとって大きな自信につながる。 ○肯定的評価が令和6年度より上昇している。成果が出ている。					
		①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							3: 70%以上	B 2	○商店街とのコラボなど活躍を聞いており、学校で児童らは良い経験ができていると感じる。 ○小学校段階では学年に応じて原理を学ばせる。この時期に根本原理を教え理解させておかないといけない。 ○商店街ももっと活気づけられればと心から思う。		
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							2: 60%以上			C 0	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							1: 60%未満				D 0
		④理科教育推進拠点校として、理科学習環境の整備と拡充、理科授業力の向上を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
お世個別 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが る材 国を 際育 都成 市し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	4: 80%以上	3	児童肯定的評価:77.1% 保護者肯定的評価:84.5% ●児童アンケート「英語を使って、あいさつや簡単な会話ができる。」の肯定的評価が80%に達しなかった。次年度は、児童に十分に英語の会話に慣れ親しませ、自信をもって学習に臨むことができるようにしたい。 ●我が国や郷土の伝統や文化を学ぶ学習をさらに推進し、児童が生活している地域に誇りをもち、生涯大切にしたい姿勢を育んでいく必要がある。 ○11月19日(水)に開催された小中一貫教育の会においてOGC(おおたグローバルコミュニケーション)のプロジェクトマップングを使用した外国語授業を実施し、児童が英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やす教材開発の提案をすることができた。 ○エコキャップ回収活動などを通してSDGsについて児童に考えさせ、自分に行える活動を行わせていくことができた。	A 3	○児童アンケートでは肯定的な回答とあるが、「慣れ親しませ自信をもって～」が難しい環境だと分かった。 ○急速なグローバル化の中で英語の環境に適應するのは時間が掛かる。同時に国内の文化を学ぶという点においても親や地域関係者がまずは学びを深め、児童に伝えられる工夫が必要である。 ○英語教育が早くから始められていて、将来が楽しみだ。 ○英語を使って簡単な挨拶ができるようになっていることは、これまでの指導の成果が表れている。郷土の良さを理解することは地域の文化を尊重する姿勢にもつながる。エコキャップ回収活動は、身近で具体的な取り組みを通してSDGsを行動させたことで「自分」にできることは何か」を考え実際に行動に移せたことは児童にとって大きな体験になったと思う。 ○日本の伝統文化を育み国際社会への対応に向けた取り組みを継続してほしい。 ○10%未満しか英語が話せない日本人にとって、幼少からのALTからネイティブな英語に触れる機会は重要である。 ○英語の会話や挨拶等に慣れ、日常生活の中でもできるようにする。また、エコキャップ回収活動などからSDGsを考える力を深め、それを継続してほしい。 ○英語の授業があった日は、ひろば内でも挨拶や単語を職員に教えてくれたりお互いに言い合ったりという場面はよく見られる。英語教育が楽しく行われている。 ○英語での簡単な会話や地域の伝統文化の説明ができれば、先々有効である。 ○これから楽しみである。					
		①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみがから会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							3: 70%以上	B 7			
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							2: 60%以上		C 0		
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							1: 60%未満			D 0	
		④六郷地域の歴史や特色を理解させ、地域社会の一員であることを自覚して生活していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
た一個 め人目 のひと 基標 礎り3 とが 個性 力と 能力 成を し発 揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	4: 80%以上	3	児童肯定的評価:95.5% 保護者肯定的評価:72.1% ●「南六小スタンダード」を基本とした基本的な生活習慣の確立を図り、学習時の挨拶や発言のきまりを校内で統一して児童が落ち着いて学習に臨めるようにしたが、保護者アンケートの肯定的評価が80%に達しなかった。次年度は、道徳科を中心に更なる「心の教育」の充実を目指していく。 ●主体的に運動に取り組ませることについてほぼ全員の学級担任が達成できたが、できなかった教員に対しては指導助言を行っている。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」について学校全体で取り組み、推進週間には生活カードを配布して生活習慣の確立を図り、教員の意識が向上するとともに保護者にも活動を啓発することができた。 ○マラソン月間の取り組みを中心に、運動習慣の確立に向けて学校全体で取り組んでいくことができた。 ○道徳の時間などを中心に、日常的に児童の自己肯定感や自己有用感を高めしていくことができた。	A 5	○児童は高評価、保護者は80%に達していない。一人ひとりの姿を受け止め、生活面・学習面・運動面の育ちを保護者自身が振り返る機会が必要だと感じた。 ○児童と保護者の評価に大きな差がある。学習環境や対人関係の評価なのか背景を知る必要がある。 ○南六郷中との共有している校庭を大いに活用して小中の連携を願う。開校40周年記念式典の6年生の合唱、合奏が素晴らしいかった。子どもの健やかな成長が楽しみ。 ○道徳心の育成において、繰り返し実践する機会を設ける。道徳の時間を中心に日常的に自己肯定感を高めることで日常生活と結び付けたことで児童が成長したのではと思った。 ほぼ全員の担任が運動に取り組ませることを達成している。学校全体が共通理解のもと実践が進められていると思った。 「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みは、生活カードを活用したことで具体的に生活を見直すことができた。 ○「南六小スタンダード」を基本とした目標達成に向けての工夫が見られる。特に道徳の時間を深めてほしい。 ○様々な児童が一人ひとり大切にされる授業を行っていると感じる。児童は少し違う環境の友達には、垣根を作る傾向がある。学校や家庭で培われた「優しさ」や「思いやり」が活きてくると感じている。 ○グローバル化が進む現代、子どもたちの家庭環境は多様化となっているが、これから成長して未来ある子どもたちの道徳心の育成、自己肯定感の向上はとくても児童の家庭の課題である。 ○道徳教育は学校だけではなく、大人の家庭の道徳感にも左右される。何をしたら相手が傷つかなど良い人間関係が築くかを児童には学んでほしい。 ○基本は家庭であるが、複雑な家庭環境の児童へも十分に対応している。地元との交流を絶やさないことが重要。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」は大事な要素かもしれない。					
		①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							3: 70%以上	B 5			
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							2: 60%以上		C 0		
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							1: 60%未満			D 0	
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。											
		⑤「南六小スタンダード」を基本とした基本的な生活習慣の確立と、「早寝・早起き・朝ごはん」の定着を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	1: 60%未満									

